

明治後期から昭和前期における東海の建築家及び 地方自治体の設計組織の建築活動に関する研究

正会員 瀬口哲夫 君

わが国の近代建築に関する研究は、東京を中心として確立した近代建築とその地方への普及という構図によって語られてきたが、近年これに対峙する存在として関西を中心とした近代建築の解明が大きく進展を見せ、他の地方における研究も積み重ねられつつある。こうした状況の中、名古屋を中心とした東海地域における近代の建築家と設計組織およびその建築活動について、長年にわたって研究成果を蓄積してきたのが候補者である。受賞論文はこれらの研究成果をまとめた21本の論文から成り、民間設計事務所、官庁営繕（愛知県）、官庁営繕（名古屋市）、近代洋風住宅の四部構成となっている。

第一部では、名古屋を中心とした東海の民間において活躍した建築家の代表的存在である鈴木禎次を取り上げ、伝統を踏まえた経済界との関わり、近代建築をリードした博覧会の役割、アメリカ視察を踏まえた百貨店建築の先導性などを論じつつ、事務所の設計体制や社会的活動に及ぶ建築活動の全容を解明し、さらに同時代の東海において活躍した数多くの建築家の経歴と建築活動についても解明している。第二部では、愛知県営繕課を対象として官庁営繕組織を取り上げ、組織の変遷と体制を把握し、県庁舎、警察署、県立学校、県立病院、県試験場などの作品概要と設計者を跡づけ、学校建築の様式変遷、官庁建築家の事績を解明している。第三部では、愛知県を上回るスタッフを擁した名古屋市建築課を取り上げ、組織の沿革と体制を把握し、市庁舎、区役所、小学校、市立学校、市立図書館、市立病院、市営住宅を始め、時代を画した公会堂、植物園、運河・閘門、動物園、博覧会などの作品概要と設計者を跡づけ、併せて官庁建築家の事績を解明している。第四部では、名古屋を代表する近代洋風住宅を取り上げ、御雇い外国人の洋風住宅、近代企業家の自邸や別邸に見る和洋折衷住宅、近代和風住宅の諸相、尾張徳川家の住宅近代化、RC造住宅の登場の過程について、モノグラフ研究の蓄積によって解明している。

地方における近代建築研究は、これまで中央建築家の作品研究の一環としてあるいは顕著な活動を示した地方建築家の事績研究にとどまっていた。本論文は、名古屋を中心とした東海地域における建築界の枢要な様態について、多年にわたる作品および資料の発掘と分析、著書および論文の編集と著述を通して、官民建築家の経歴、組織の設計体制、官民の人事交流、建築教育の普及、建築技術の普及、都市景観との関わり、地域的伝統との関わりなど建築界のあらゆる局面に目配りしつつ、総合的に解明を果たしている。

東海地域における近代建築研究の礎となる網羅的かつ重要な知見を数多く提供するとともに、東京と関西に続く第三の極として中京建築界の存在を浮上させた学術的意義は極めて大きく、地方をも包摂した日本近代建築史研究の新たな地平を切り拓く論文である。

よって、ここに日本建築学会賞を贈るものである。